

名古屋大学における 研究データ管理体制の整備

松原 茂樹（情報戦略）
揚野 敏光（図書館）
吉田 千穂（URA）
（名古屋大学）

NII 学術情報基盤
オープンフォーラム2019

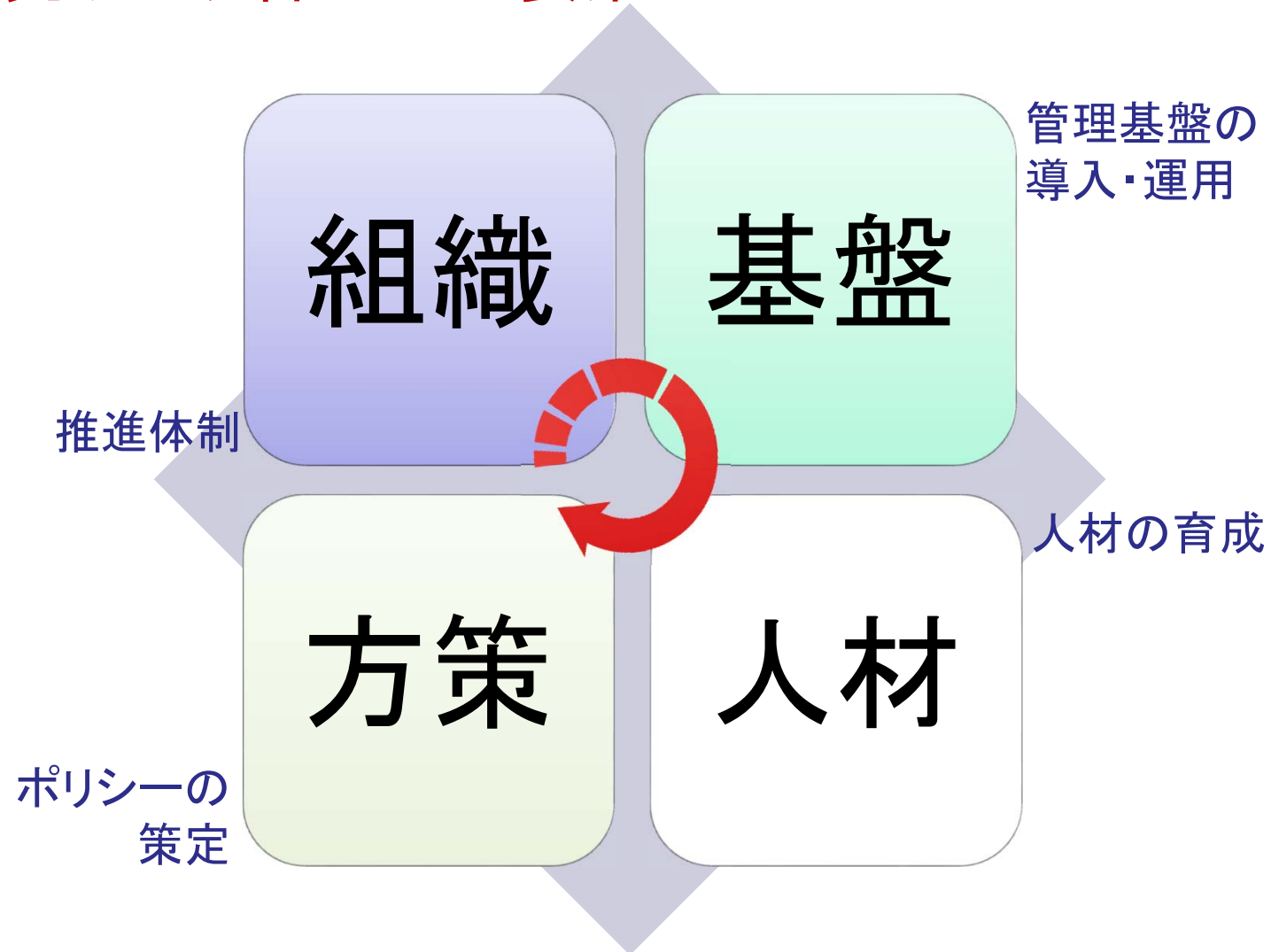
AXIES 研究データマネジ
メント部会合同トラック

学術機関における
研究データ管理の進め方

2019/05/29

大学機関における研究データ管理

- 研究データ管理の**4**要素



1. 組織



- 研究データマネジメント・プロジェクト

- 名古屋大学情報連携統括本部
プロジェクト専門委員会

- 2018年5月発足

- 【目的】名古屋大学における
オープンサイエンスを推進するために、

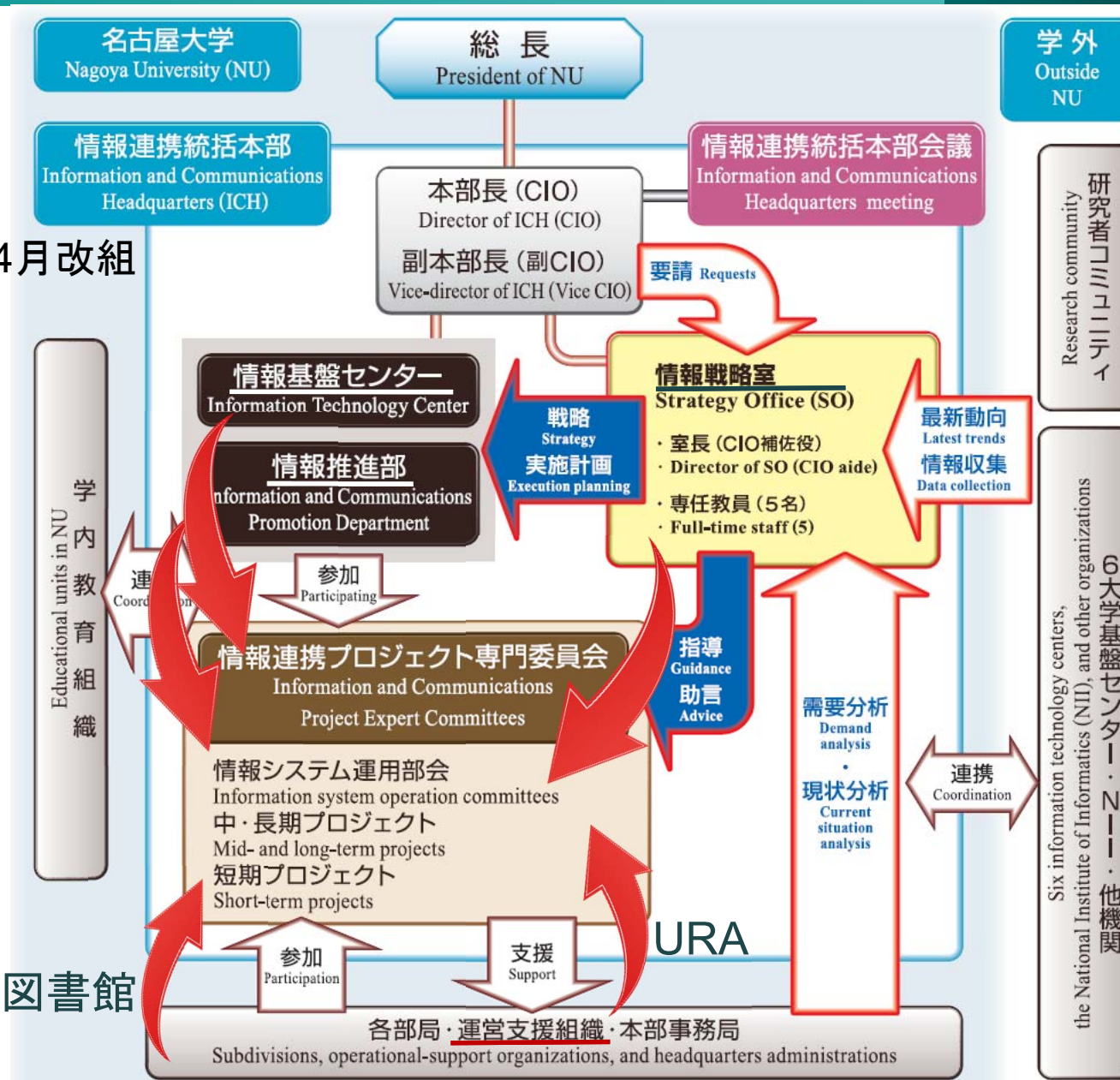
- ポリシー、実施体制・方法の設計

- 研究データマネジメント基盤の整備
に取り組む。

1. 組織

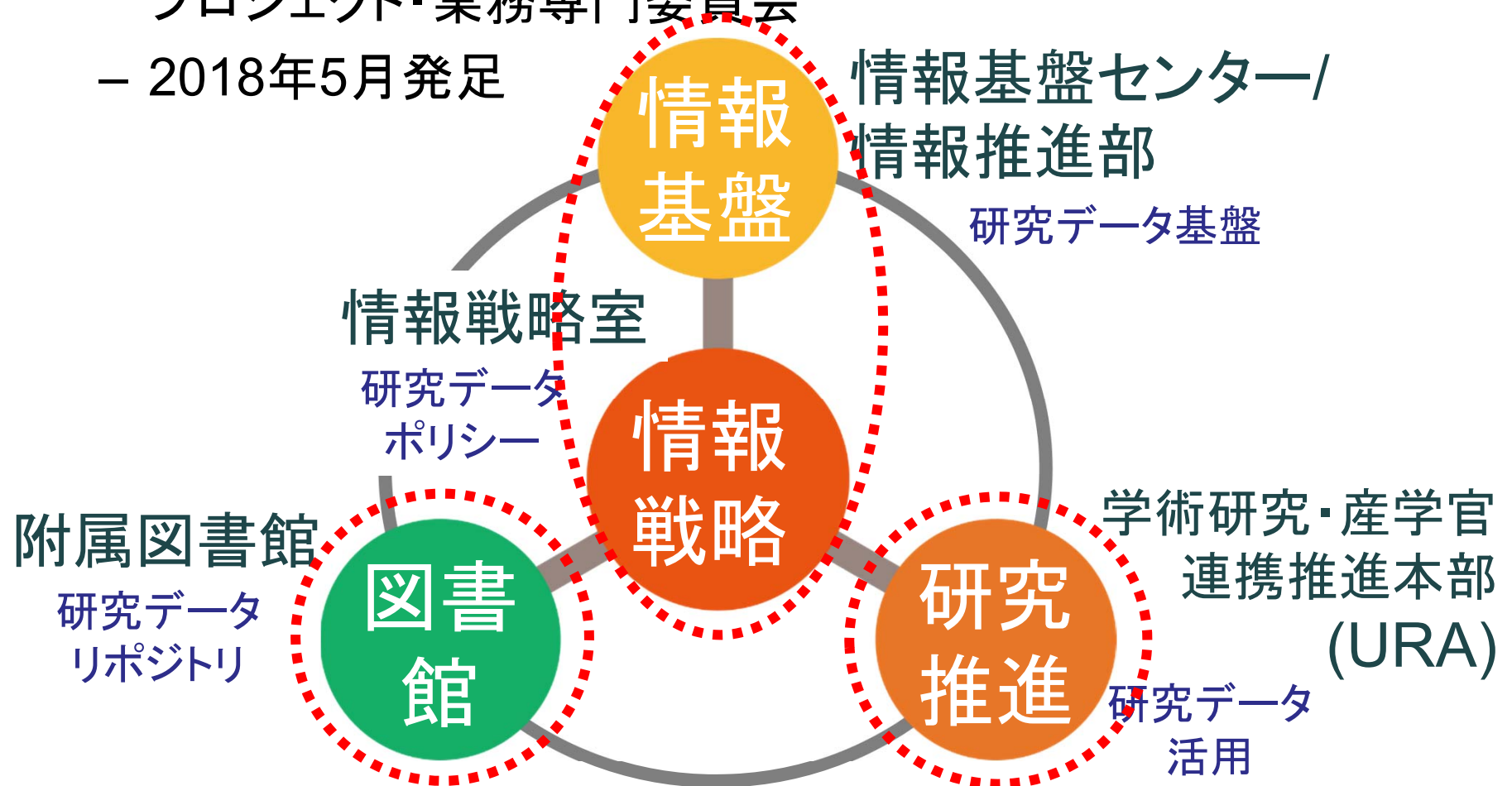
2009年4月改組

附属図書館



- 研究データマネジメント・プロジェクト

- 名古屋大学情報連携統括本部
プロジェクト・業務専門委員会
- 2018年5月発足



2. 基盤

- **GakuNin RDM** の導入と利用



クローズドテスト(第2回) 参加

ラボレベルでの利用に際しての
機能要件を探るための実験

2. 基盤

- **GakuNin RDM** の導入と利用



実証実験(ロングランテスト)
に参加(2019.3～)

- プロジェクトメンバーによる試用

コンテンツ・OSTラック① 15:00-15:15
名古屋大学におけるGakuNin RDM の運用

2. 基盤

- **GakuNin RDM** の導入と利用



国立大学経営改革
促進事業

研究データの
大学間相互利用に向けた
アカデミッククラウドの構築

実証実験(ロングランテスト)
に参加

- 研究データ管理向け
クラウドストレージを導入し、
エクストラストレージとして接続



3. 人材

- **公開講演会** (情報連携統括本部講演会) の開催
 - 「研究データ管理」の理念とノウハウを学内で共有

第1回

- 【題目】NII研究データ基盤サービスを利用した学内システムの構築
- 【講師】込山悠介 氏
(NII オープンサイエンス基盤研究センター)
※ 中央図書館, 9/12 13:00-14:30, 27名参加

第2回

- 【題目】研究データ管理と大学:現状と課題
- 【講師】尾城孝一氏
(NII オープンサイエンス基盤研究センター)
※ 中央図書館, 12/5 13:00-15:00, 35名参加

4. 方策

- 現存する規程・ポリシー

- 研究データ保存の学内規程

研究資料等(試料及び標本を除く。)の
保存期間は, 原則として, 当該論文等
の発表後10年間とする。

○名古屋大学における研究上の
不正行為に関する取扱規程(第6条)

- オープンアクセス・ポリシー

名古屋大学は, 本学に在職する教職員
による学術論文(共著を含む。)を可能
な限り, 広く無償で公開する。

○名古屋大学オープンアクセスポリシー

4. 方策

- 学術機関における研究データ管理に関する提言
 - － 研究データ管理の理念や考え方の観点を記載

(目的・効果)

- I. 研究データ管理における学術機関の役割
- II. 学術機関における研究データ管理の導入目的の実際
- III. 学術機関が管理・提供する研究データと利活用の場面
(方法・機能・維持管理)
- IV. 学術機関における研究データ管理を成り立たせる条件
- V. 学術機関における研究データ管理のための仕組み
- VI. 研究データ管理のためのデジタルプラットフォームの
機能要件
- VII. 研究データ管理のための人材育成

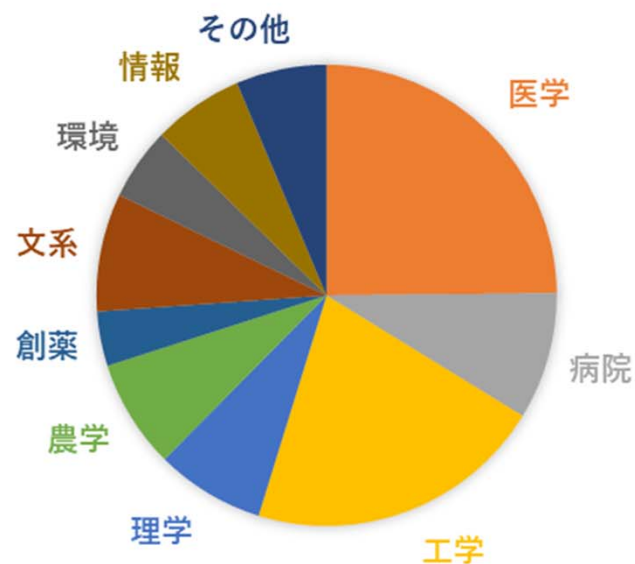
4. 方策(学内アンケート)

- 「名古屋大学における研究データ管理」に関するアンケート

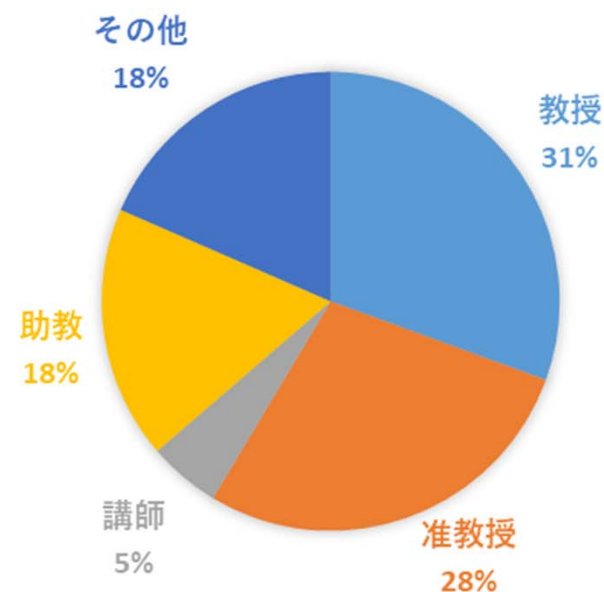
- 実施期間: 2019/4/15~5/10
- 設問数: 10項目
- 対象者: 名古屋大学の教員・研究者

- 回答者**157**名 (教員1,727名(2018年5月現在)の約9.1%)

回答者の分野別割合



回答者の職位

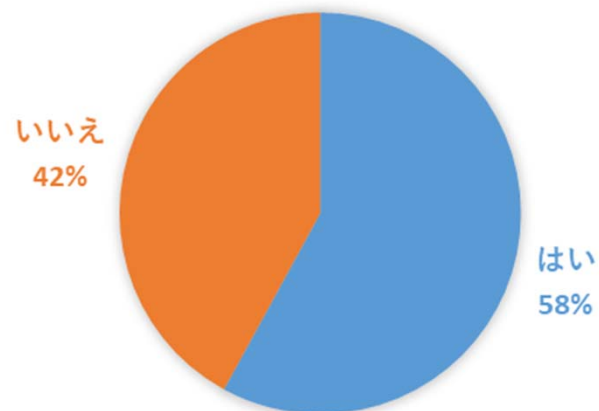


4. 方策(学内アンケート)

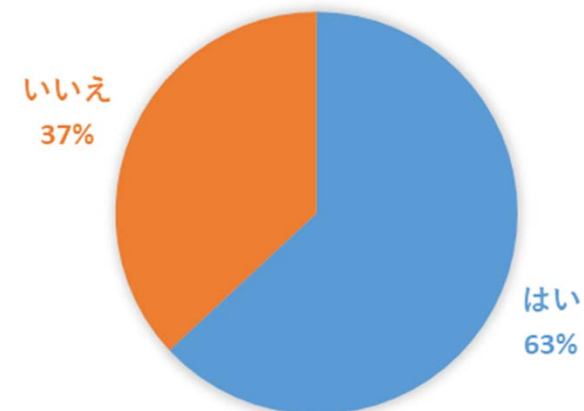
- アンケートの実施にあたり、以下を概説
 - 「研究データ」とは
 - 「学術機関による研究データ管理」とは
 - 「研究データ管理」を取り巻く国内外の動向

• 学術機関による研究データ管理に関する知識

学術機関による研究データ管理の
国内外の動向を知っていた？



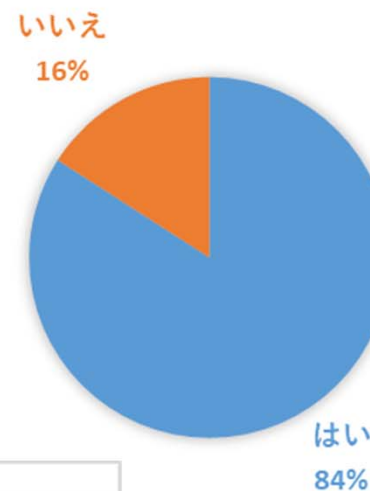
「研究資料等の保存期間は論文等の発表
後10年間」の学内規程を知っていた？



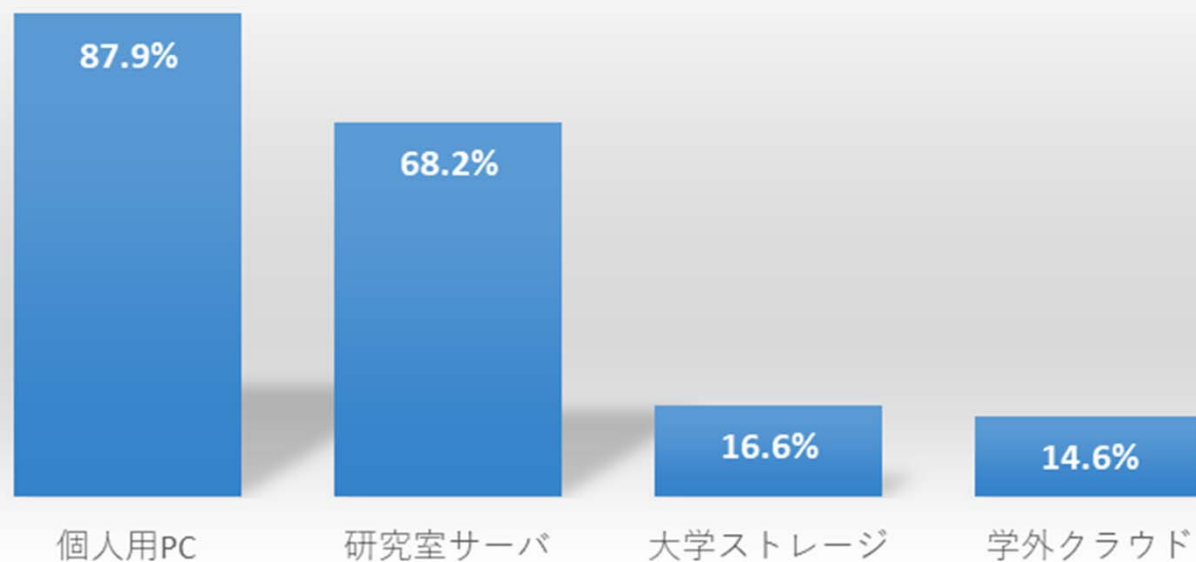
4. 方策(学内アンケート)

- 研究データ管理の現状
 - 研究データのバックアップ
 - 研究データの保管方法

研究データを定期的にバックアップしている？



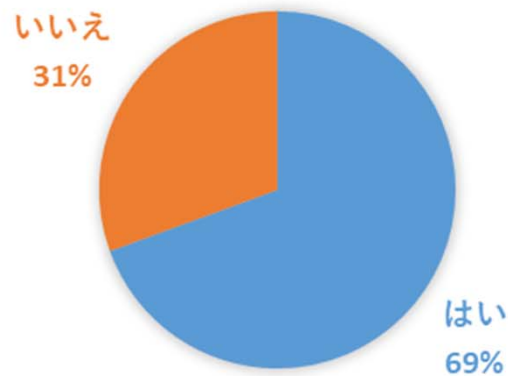
研究データの保管方法 (現状)



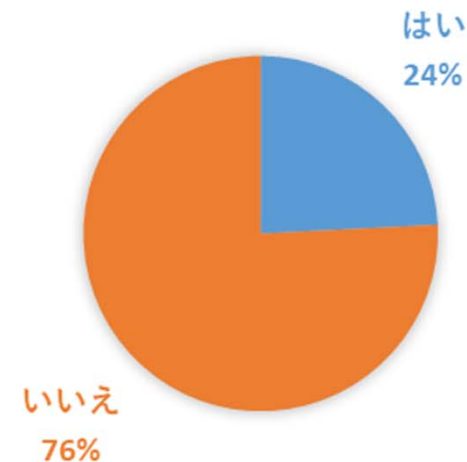
4. 方策(学内アンケート)

- 学術機関による研究データ管理のニーズ
 - 大学による管理での研究データの保管を希望？
 - 大学による管理での研究データの公開は可能？

本学による研究データ管理で保管したい研究データはある？

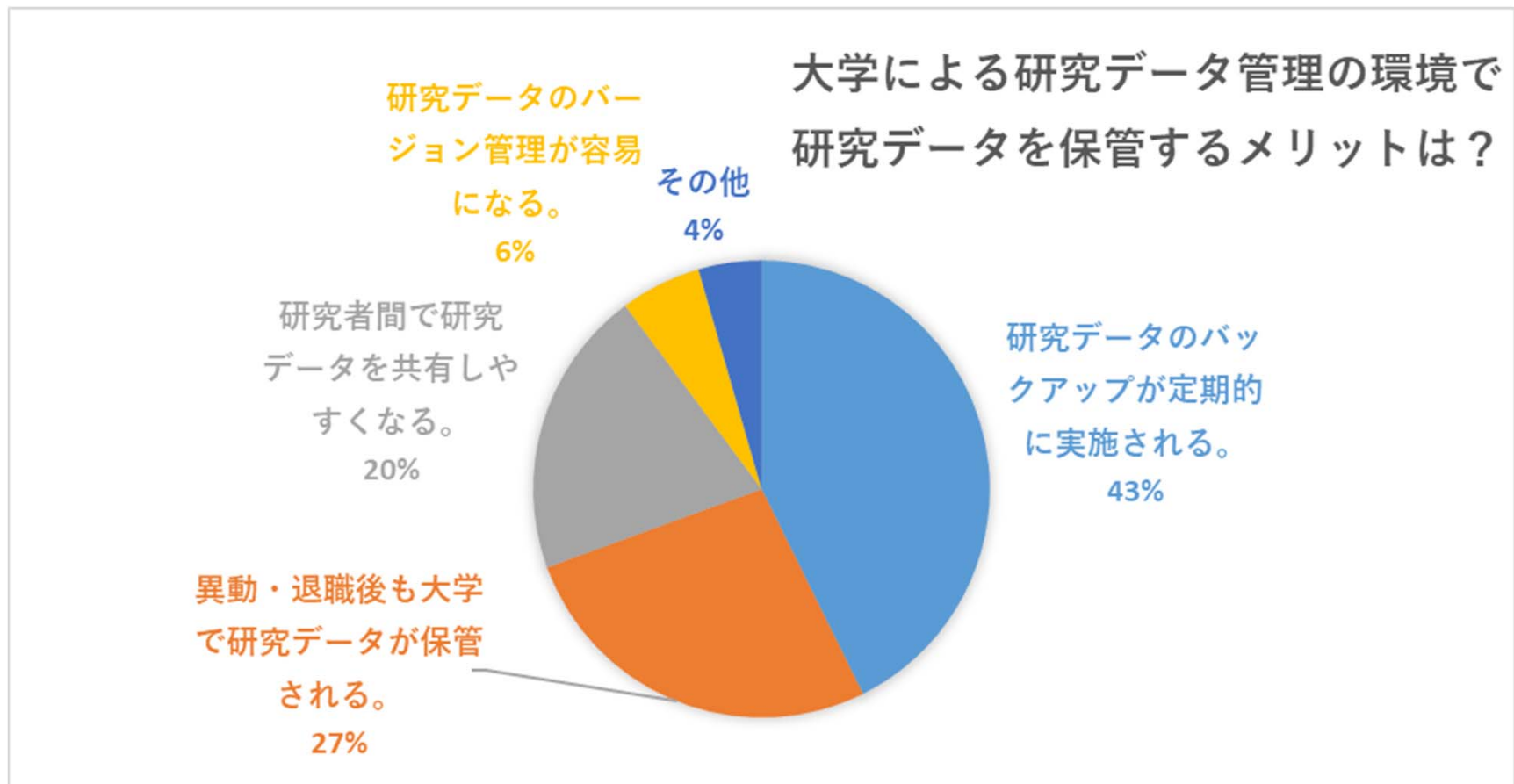


大学が整備する環境で公開可能な研究データはある？



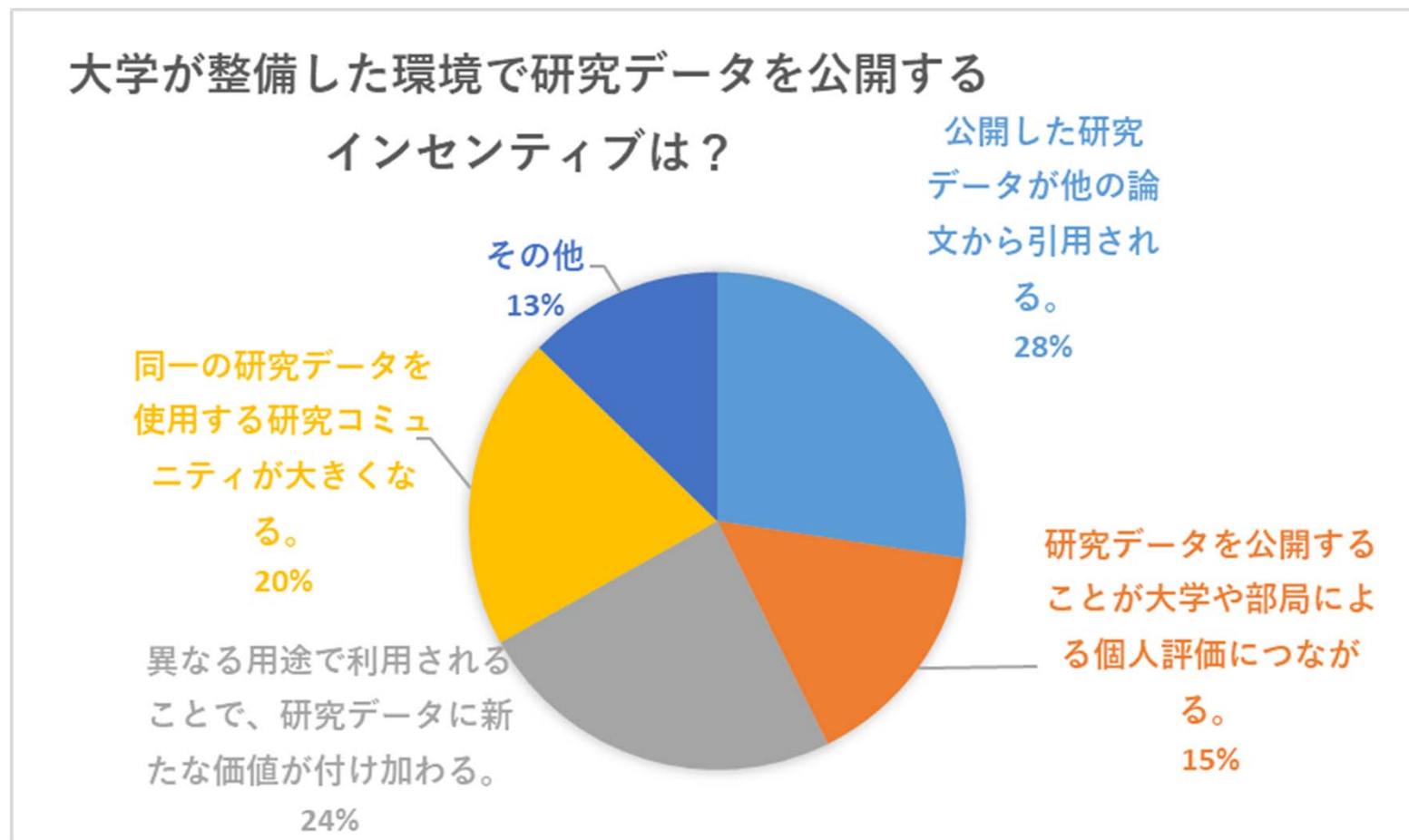
4. 方策(学内アンケート)

- 学術機関による研究データ管理の促進(1/2)
 - 学術機関による研究データ管理のメリット



4. 方策(学内アンケート)

- 学術機関による研究データ管理の促進 (2/2)
 - 研究データ公開のインセンティブ



まとめ

- 名古屋大学における研究データ管理に関する
これまでの取り組み



組織

情報連携統括本部、附属図書館、URA による
研究データマネジメントプロジェクトを発足

基盤

GakuNin RDM を試用。
実証実験に向け、クラウドストレージを導入

人材

研究データ管理に関する公開講演会を
開催し、学内の関係者と考え方を共有

方策

学内アンケートを実施し、研究データ管理
に関する本学の現状とニーズを調査

今後の計画

- 当面の予定(2019年度)

学内アンケート の活用

- ニーズの把握
- コミュニティ
形成

研究データ基盤 の構築

- ストレージ
- 認証基盤

実証実験 ポリシーの策定

- ディスク規模
- 利用者の範囲

- 将来の課題

- 研究データ管理教育の導入(全学リテラシ科目など)
- データ科学の教育・研究のためのリソースとして活用
- 東海地域における大学間連携による効率的な運用